

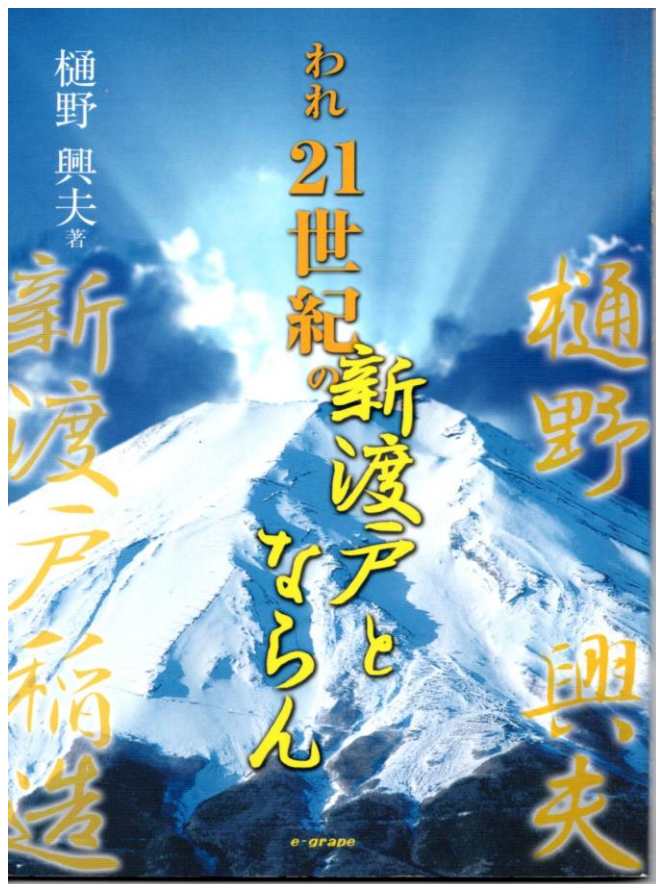
恩恵に感謝する ～ 何故に 何の為に ～

2025 年 8 月 11 日(月) は『山の日』の祝日である。【『山の日』は『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』ことを趣旨としている。】と謳われている。また、【40 年前の 1985 年 8 月 12 日 日本航空のジャンボ機が、上野村の山中に墜落し、単独の航空機事故としては最も多い 520 人が犠牲になりました。】と報道されていた。【哀悼の意を表します】

筆者にとって『山』と言えば『富士山』(画像)である。【壮大な品格のある『富士山(3776m)』の姿には、いつも大いに心が慰められる。筆者は幼年時代から 誕生の年の母の元旦の夢が『富士山』であり、幼児の時から『富士山子』と母に励まされたものである。】これが『愛情の原点』となった！母は、島根県出雲市大社町鵜峠(ウド)の自宅に於いて、安らかに 96 歳(1923 年 2 月 20 日～2019 年 6 月 3 日)の天寿を全うした。母の兄達は、太平洋戦争で戦死し、末っ子の母が我が家を継いだ。そして、祖父から、『家を興(おこ)す = 樋野興夫 = ひのおきお = Origin of Fire』と命名されたと、膝に抱かれて聞かされた幼年時代の思い出が鮮明に蘇る。

鵜峠は、無医村で小学校も中学校も廃校になった。海辺に行き、日本海を眺めながら、『何故に、この母から この世に、生まれたのか?』 & 『何の為に、この地で、生まれたのか?』を深く静思したものである。小学校の卒業式で、来賓が『ボーイズ・ビー・アンビシャス (boys be ambitious)』を語られた。札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク(1826-1886)(画像)が、1877 年 アメリカ帰国の時、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。クラーク精神が 内村鑑三(1861-1930)と新渡戸稲造(1862-1933)を生んだものである。(画像)

今日(8 月 11 日)、西原広史(慶應義塾大学 医学部がんゲノム医療センター)教授が、北海道大学に在職中、帯広の病院での講演を企画されたことが鮮明に思い出された。まさに、西原広史先生は『ボーイズ・ビー・アンビシャス (boys be ambitious)の精神を受け継ぐ医学研究・教育者』である。



上 内村鑑三先生
下 新渡戸稲造先生